



## 旧大川中学校跡地の利活用に係る基本構想策定業務報告書

2023年2月

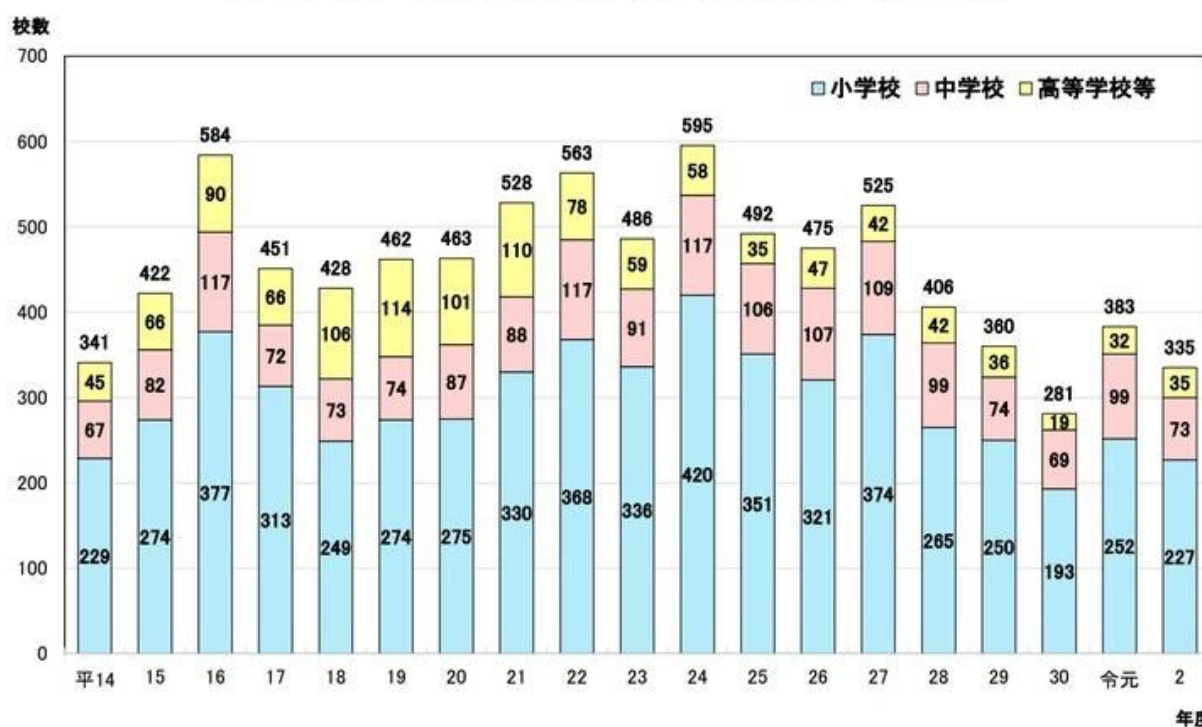
## 1 社会的背景

全国では令和2年時点で8,580校の廃校があり、毎年470校程度が新たに廃校となっている。その一方で利活用も増えている。学校施設は、地域の思い出の場所としてだけでなく、地域を維持させる社会的なインフラや地域振興の新たな拠点として再評価されつつある。前掲8,580校のうち、7割程度が新たな用途に変更され活用されており、地域への影響の度合い、事業の成功、失敗などを問わなければ、多くの事例ができつつある状況となっている。

また利活用を検討する機会は地域を見直す契機にもなっている。地域住民の数、担い手世代が充足していた時代が終わり、自治会や地域コミュニティの維持、存続が今までのやり方では難しくなっている現在で、廃校の利活用検討は、地域の未来を考えると同義であり、下記に記載したような地域の特徴やこれまでを振り返りながら、当事者意識を持って今後、地域に何が必要かを考えることが求められている。

- ・地域を見つめ直すきっかけ
- ・住民同士のつながりの強化
- ・地域の活性化
- ・転入者増の可能性
- ・交流活動の拠点
- ・生きがいや雇用の創出
- ・地域資源の収益化と還元

公立学校の年度別廃校発生数（平成14年度～令和2年度）



出典：文部科学省

## 廃校施設の活用状況

廃校年度		前 回	今 回
		平成14年度～平成29年度 (平成30年5月1日現在)	平成14年度～令和2年度 (令和3年5月1日現在)
<b>廃校の数 (A)</b>	小学校	5,005	5,680
	中学校	7,583	8,580
	高等学校等	1,094	1,181
<b>施設が現存している廃校の数 (B)</b>		(校) 86.8%	(校) 86.2%
× 100% B/A		<b>6,580</b>	<b>7,398</b>
<b>活用されているもの (a)</b>		74.5%	74.1%
a/B		4,905	5,481
<b>活用されていないもの (b)</b>		25.5%	25.9%
b/B		1,675	1,917
活用の用途	決まっている (c)	3.1%	3.8%
	決まっていない (d)	19.7%	19.2%
c/B		204	278
d/B		1,295	1,424
<b>取壊しを予定 (e)</b>		2.7%	2.9%
e/B		176	215
<b>現存する施設なし (C)</b>		13.2%	13.8%
C/A		1,003	1,182

出典：文部科学省

## 主な活用用途

(単位：件数)

	平成14年度～ 平成29年度 (平成30年5月1 日現在)	平成14年度～令和2年度 (令和3年5月1日現在)		
		合計	校舎	屋内運動場
<b>学校(大学を除く)</b>	<b>3,473</b>	<b>3,948</b>	<b>1,987</b>	<b>1,961</b>
<b>社会体育施設</b>	<b>1,581</b>	<b>1,756</b>	<b>175</b>	<b>1,581</b>
<b>社会教育施設・文化施設</b>	<b>1,194</b>	<b>1,330</b>	<b>835</b>	<b>495</b>
社会教育施設	912	989	610	379
文化施設	282	341	225	116
<b>福祉施設・医療施設等</b>	<b>705</b>	<b>774</b>	<b>567</b>	<b>207</b>
老人福祉施設	223	225	169	56
障害者福祉施設	169	176	129	47
保育施設	55	67	50	17
認定こども園	30	40	23	17
児童福祉施設(保育所を除く)	64	66	49	17
放課後児童クラブ	101	127	95	32
放課後子供教室	35	39	24	15
医療施設	28	34	28	6
<b>企業等の施設・創業支援施設</b>	<b>783</b>	<b>1,020</b>	<b>685</b>	<b>335</b>
企業や法人等の施設	711	947	635	312
創業支援施設	72	73	50	23
<b>庁舎等</b>	<b>417</b>	<b>461</b>	<b>333</b>	<b>128</b>
<b>体験交流施設等</b>	<b>477</b>	<b>520</b>	<b>336</b>	<b>184</b>
<b>備蓄倉庫</b>	<b>177</b>	<b>199</b>	<b>133</b>	<b>66</b>
<b>大学</b>	<b>76</b>	<b>79</b>	<b>45</b>	<b>34</b>
<b>住宅</b>	<b>22</b>	<b>21</b>	<b>13</b>	<b>8</b>

(複数回答)

出典：文部科学省

## 2 大川地区の現状

旧大川中学校は、1947年に開校し、2020年3月に閉校した。小学校と隣接し地域の子供たちの学びの中心であるとともに、防災拠点、運動会など地区住民のより所となる場所であった。中学校区である尻無、的場、中屋敷、仲仁田、川畑中、牛之浜地区における人口は1316人（世帯数785）、住民の平均年齢は65歳台となっており、今後の加速度的な高齢化、人口減少によって起こる課題の増加、深刻化が懸念される。

### 旧大川中学区世帯表

住民記録 人口世帯集計表

作成年月日：令和5年2月1日

行政区	【世帯数】				【男】			【女】			【計】		
	日本人	外国人	複数	計	日本人	外国人	計	日本人	外国人	計	日本人	外国人	計
尻無区	280	0	0	280	222	0	222	239	0	239	461	0	461
的場区	119	0	0	119	89	0	89	109	0	109	198	0	198
中屋敷区	54	0	1	55	31	0	31	43	1	44	74	1	75
仲仁田区	78	0	0	78	62	0	62	73	0	73	135	0	135
川畑中区	32	0	0	32	16	0	16	28	0	28	44	0	44
牛之浜区	221	0	0	221	180	0	180	223	0	223	403	0	403
合計	784	0	1	785	600	0	600	715	1	716	1,315	1	1,316

### 住民記録 年齢別人口集計表

#### 大川6区（尻無、的場、中屋敷、仲仁田、川畑中、牛之浜）

年齢起算日：令和5年1月31日 集計基準日：令和5年1月31日 集計項目：男女別  
対象者：日本人+外国人 転出予定者：転出移動日で転出者とする。

作成年月日：令和5年2月1日

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計	年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
0	4	1	5	30	6	2	8	60	19	8	27	90	9	15	24
1	0	2	2	31	2	1	3	61	10	11	21	91	4	16	20
2	1	2	3	32	2	0	2	62	16	8	24	92	6	15	21
3	2	3	5	33	3	2	5	63	13	12	25	93	4	8	12
4	1	0	1	34	2	4	6	64	20	14	34	94	3	6	9
	8	8	16		15	9	24		78	53	131		26	60	86
5	2	0	2	35	4	0	4	65	9	14	23	95	0	8	8
6	2	2	4	36	2	2	4	66	11	8	19	96	0	11	11
7	3	1	4	37	3	2	5	67	14	14	28	97	0	1	1
8	2	0	2	38	4	2	6	68	16	18	34	98	1	5	6
9	1	2	3	39	3	5	8	69	9	14	23	99	0	3	3
	10	5	15		16	11	27		59	68	127		1	28	29
10	1	4	5	40	3	1	4	70	13	22	35	100	0	1	1
11	1	2	3	41	3	6	9	71	16	12	28	101	0	0	0
12	1	5	6	42	6	5	11	72	21	17	38	102	0	2	2
13	1	1	2	43	6	2	8	73	24	16	40	103	0	1	1
14	4	1	5	44	2	4	6	74	18	18	36	104	0	0	0
	8	13	21		20	18	38		92	85	177		0	4	4
15	2	0	2	45	5	2	7	75	13	10	23	105	0	0	0
16	0	2	2	46	5	8	13	76	13	19	32	106	0	0	0
17	1	2	3	47	3	4	7	77	8	13	21	107	0	0	0
18	7	1	8	48	3	4	7	78	5	18	23	108	0	0	0
19	2	2	4	49	6	6	12	79	9	12	21	109	0	0	0
	12	7	19		22	24	46		48	72	120		0	0	0
20	1	4	5	50	9	7	16	80	9	16	25	110	0	0	0
21	2	4	6	51	3	8	11	81	8	12	20	111	0	0	0
22	2	3	5	52	4	6	10	82	14	19	33	112	0	0	0
23	0	2	2	53	10	3	13	83	8	22	30	113	0	0	0
24	3	0	3	54	7	10	17	84	9	13	22	114	0	0	0
	8	13	21		33	34	67		48	82	130		0	0	0
25	1	4	5	55	11	5	16	85	11	7	18	115	0	0	0
26	2	2	4	56	7	9	16	86	8	16	24	116	0	0	0
27	2	0	2	57	7	11	18	87	11	17	28	117	0	0	0
28	0	4	4	58	5	10	15	88	10	14	24	118	0	0	0
29	1	0	1	59	9	10	19	89	11	13	24	119~	0	0	0
	6	10	16		39	45	84		51	67	118		0	0	0
合計		600		716		1,316									
平均年齢		62.6		67.7		65.4									



### 3 本事業の目的

本事業では、閉校した旧大川中学校の今後の利活用について、地域住民だけでなく地域外住民（阿久根市内）を含めて広く意見を募れる機会を作り、その上で構想案を策定することを主な目的とした。

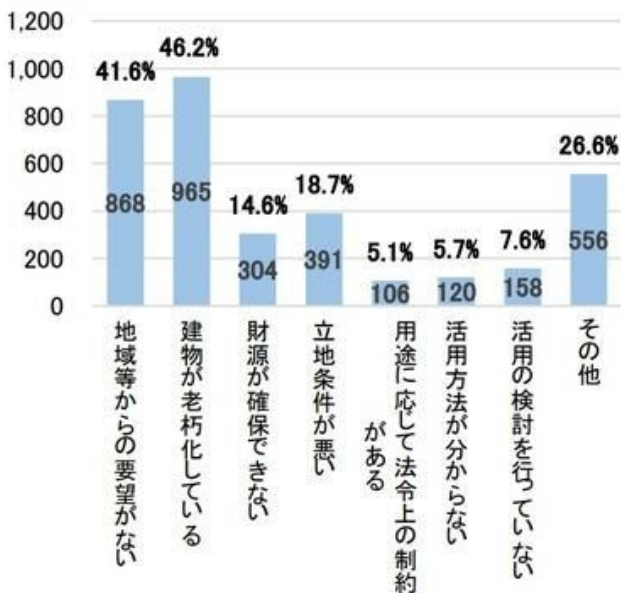
地域住民の暮らし、生活環境が良くなるような未来のビジョン（むらのこしのイメージ）と廃校の利活用案が連携した構想の策定を目指すとともに、持続的な運営につながるよう、当事者意識の高い機運の醸成に資するように努めた。

### ○活用の用途が決まっていない理由

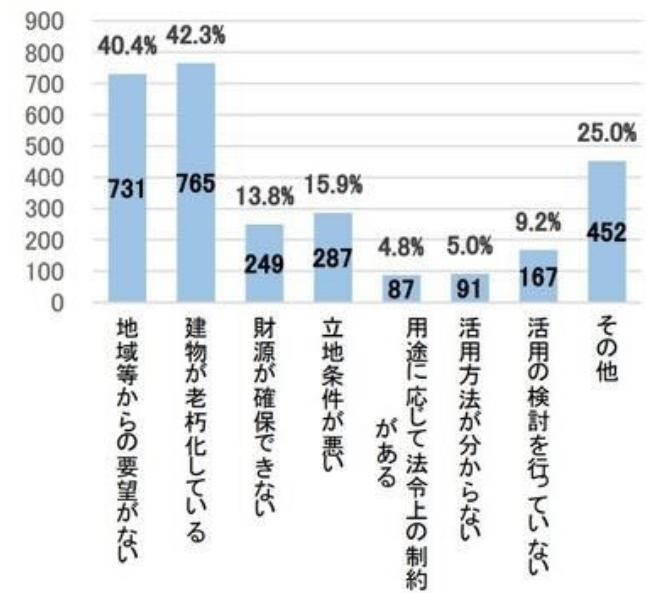
（複数回答）

校舎 (n=2,089)								屋内運動場 (n=1,808)							
地域等からの要望がない	建物が老朽化している	財源が確保できない	立地条件が悪い	用途に応じて法令上の制約がある	活用方法が分からない	活用の検討を行っていない	その他	地域等からの要望がない	建物が老朽化している	財源が確保できない	立地条件が悪い	用途に応じて法令上の制約がある	活用方法が分からない	活用の検討を行っていない	その他
868 (41.6%)	965 (46.2%)	304 (14.6%)	391 (18.7%)	106 (5.1%)	120 (5.7%)	158 (7.6%)	556 (26.6%)	731 (40.4%)	765 (42.3%)	249 (13.8%)	287 (15.9%)	87 (4.8%)	91 (5.0%)	167 (9.2%)	452 (25.0%)

【校舎】



【屋内運動場】



出典：文部科学省

### 4 報告書

本報告書では、「旧大川中学校跡地の利活用に係る基本構想策定業務」に従い次の項目について報告する。

- A 当該中学校などの基礎調査：現在の建築物の劣化や破損の程度、備品などについて調査・把握する
- B ワークショップの開催：地区の特徴を振り返り、できることについて協議する
- C 講演会の開催：ワークショップの実施を踏まえて必要とされる有識者を招集し開催する
- D 基本構想の策定：ワークショップと連動し、基本構想を策定する

A 基礎調査

南棟校舎；

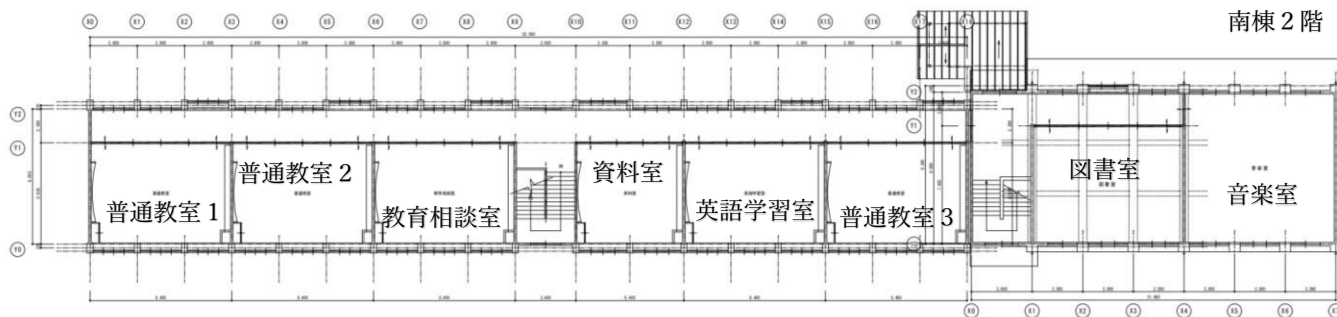
旧大川中学校16号棟建物カルテ

1	所在地	阿久根市大川8211番地1, 8309番地	
2	竣工年	昭和51年	
3	施設区分	校舎	
4	階数	2階建て	
5	確認申請	あり	
6	確認済証	S50.8.5 第238号	ただし原本は消失
7	敷地面積	13,161.46 m <sup>2</sup>	登記簿面積による
8	用途地域	無指定	
9	高度地区	なし	
10	防火地域	なし	
11	外壁後退距離	なし	
12	建蔽率	70 %	
13	容積率	400 %	
14	前面道路	建築基準法第42条第1項1号道路 市道国道的場線	
15	前面道路幅員	4.0～6.0m	
16	構造	鉄筋コンクリート	
17	構造形式	ラーメン構造	
18	基礎	独立基礎	
19	建築面積	416 m <sup>2</sup> (確認申請原本がないため手計算による数値)	
20	延べ床面積	832 m <sup>2</sup>	
21	大規模な修繕履歴	H13 屋根防水工事	

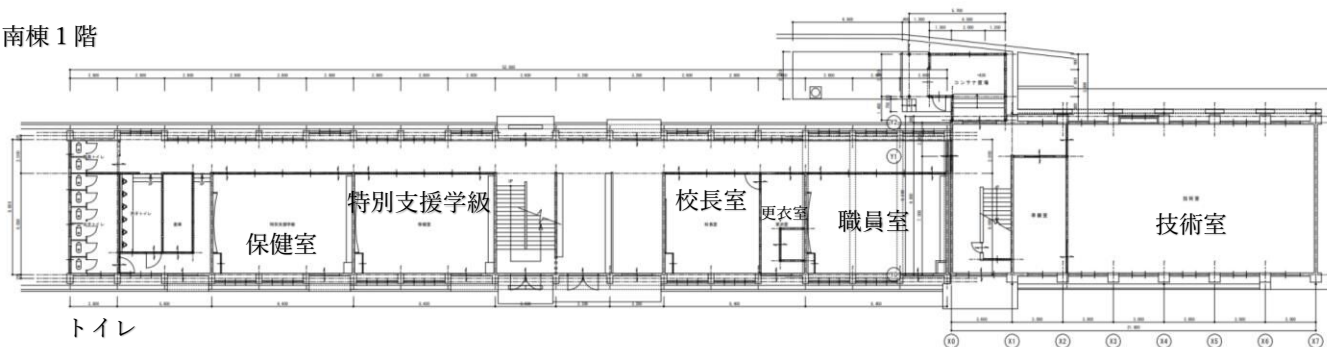
旧大川中学校17号棟建物カルテ

1	所在地	阿久根市大川8211番地1, 8309番地	
2	竣工年	昭和57年	
3	施設区分	校舎	
4	階数	2階建て	
5	確認申請	あり	
6	確認済証	S56.11.6 第415号	
7	敷地面積	13,161.46 m <sup>2</sup>	登記簿面積による
8	用途地域	無指定	
9	高度地区	なし	
10	防火地域	なし	
11	外壁後退距離	なし	
12	建蔽率	70 %	
13	容積率	400 %	
14	前面道路	建築基準法第42条第1項1号道路 市道国道的場線	
15	前面道路幅員	4.0～6.0m	
16	構造	鉄筋コンクリート	
17	構造形式	ラーメン構造	
18	基礎	独立基礎	
19	建築面積	194.4 m <sup>2</sup>	
20	延べ床面積	388.8 m <sup>2</sup>	
21	大規模な修繕履歴	H29屋根防水工事	

南棟 2階



南棟 1階



南棟 1階				
室名	建物	設備	状態、その他	写真
男子トイレ	入口の扉がない	和式が中心	状態：使用可	
女子トイレ		和式が中心	状態：使用可	
廊下		共用流しあり	状態：使用可	



				
特別支援学級			避難所として利用中 状態：使用中	
保健室			避難所として利用中 状態：使用中	
校長室			本棚、学習机等 状態：使用可	
更衣室			投票所備品倉庫 状態：使用中	

職員室			地区会議室として 利用中 状態：使用可	
準備室			状態：使用可	
技術室			歴史資料展示室 状態：使用中	
コンテナ置 き場				
南棟 2 階				
室名	建物	設備	状態、その他	写真
廊下、階段		共用流しあ り	状態：使用可	

				
普通教室 1	窓側柱部分にクラックの補修箇所あり		状態：使用可	
普通教室 2	窓側柱部分にクラックの補修箇所あり		状態：使用可	 
教育相談室			状態：使用可	 



資料室			災害時用備品倉庫 状態：使用中	
英語学習室			状態：使用可	
普通教室 3			記念教室として保 存中 状態：使用中	
図書室			書籍、本棚 状態：使用可	
音楽室			状態：使用可	

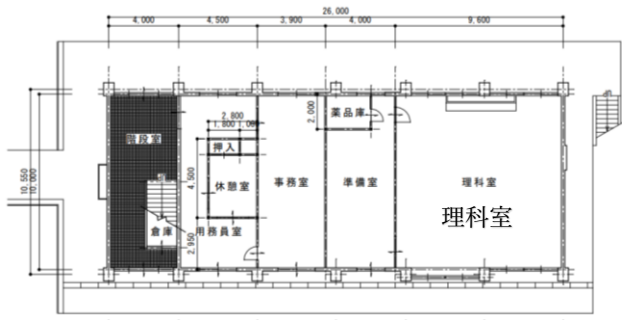


東棟校舎：

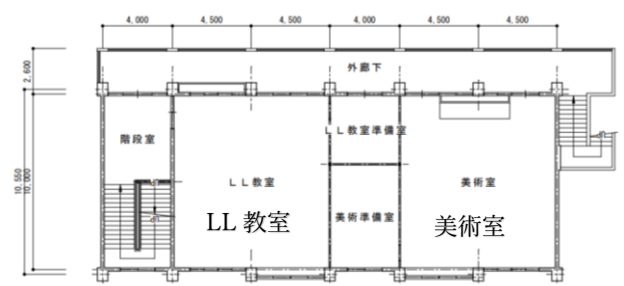
旧大川中学校18号棟建物カルテ

1	所在地	阿久根市大川8211番地1, 8309番地	
2	竣工年	昭和61年	
3	施設区分	校舎	
4	階数	3階建て	
5	確認申請	あり	
6	確認済証	S60.9.12 第224号	
7	敷地面積	13,161.46 m <sup>2</sup>	登記簿面積による
8	用途地域	無指定	
9	高度地区	なし	
10	防火地域	なし	
11	外壁後退距離	なし	
12	建蔽率	70 %	
13	容積率	400 %	
14	前面道路	建築基準法第42条第1項1号道路 市道国道的場線	
15	前面道路幅員	4.0~6.0m	
16	構造	鉄筋コンクリート	
17	構造形式	ラーメン構造	
18	基礎	独立基礎	
19	建築面積	540 m <sup>2</sup> (確認申請原本がないため手計算による数値)	
20	延べ床面積	950 m <sup>2</sup>	
21	大規模な修繕履歴		

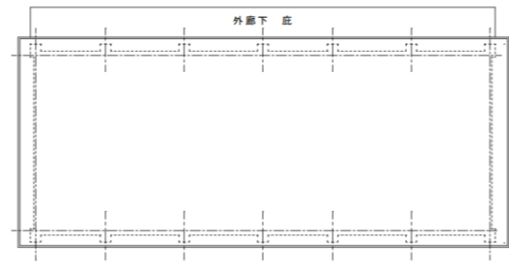
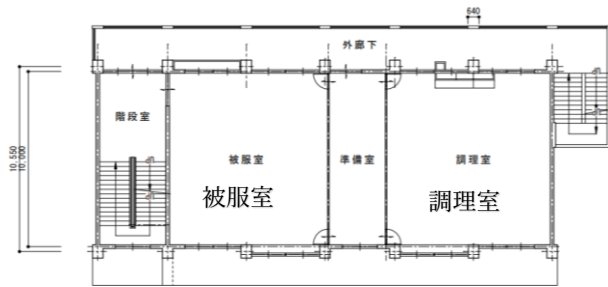
東棟 1階



東棟 3階



東棟 2階



東棟 1階				
室名	建物	設備	状態、その他	写真
用務員室		流し	状態：使用可	
休憩室			状態：使用可	

準備室			棚、机 状態：使用可	
理科室		流し	棚 状態：使用可	
東棟 2階				
室名	建物	設備	状態、その他	写真
被服室			棚 状態：使用可	
準備室			棚、机 状態：使用可	
調理室		調理室用作業台	棚 状態：使用可	
東棟 3階				
室名	建物	設備	状態、その他	写真

LL 教室		PC 用机	状態：使用可	
準備室			棚、机 状態：使用可	
美術室	窓側柱部分 にクラック の補修箇所 あり	流し	状態：使用可	
その他				
南棟屋上	防水工事済 み			
東棟屋上	要防水工事			
プール			消防水利として活 用中 状態：不明	



外トイレ			状態：使用中	
鳥舎、畑			状態：不明	
倉庫			状態：使用可	
武道館			状態：使用中	
体育館			状態：使用中 大川小学校管理	
校庭			グラウンドゴルフ、 運動会等で定期的 に利用中	



所見：

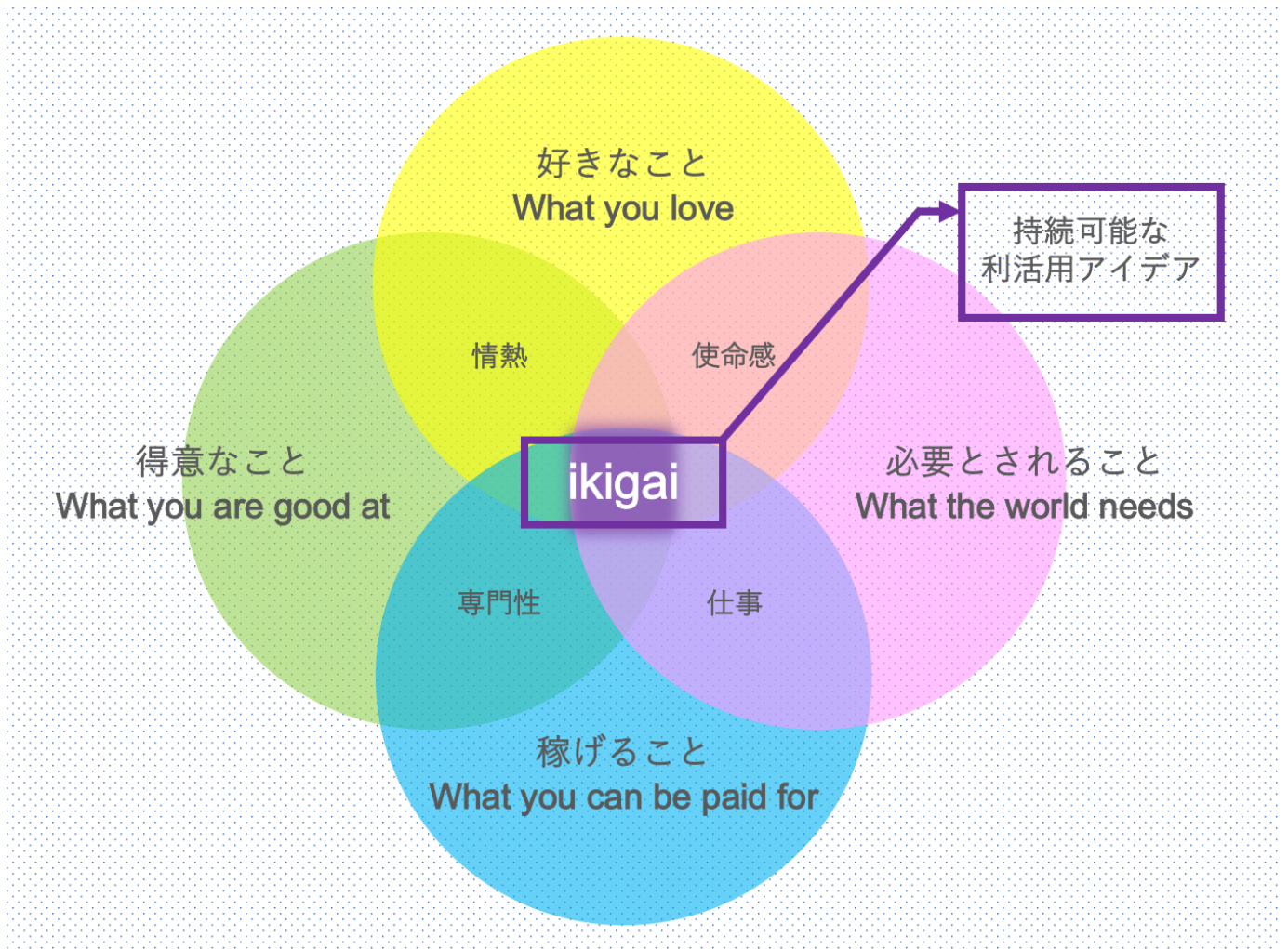
特筆すべき事項としては、閉校から間もなく、用途によっては軽微な改修工事（大きな改修費を要せず）で利活用を始めることができるという点。具体的な例としてはコミュニティ拠点、コワーキングスペースなど。内装については、閉校から間もないこともあり大きな劣化や破損は認められなかった。経年変化による劣化やトイレ等設備の老朽化は一定程度認められるが、軽微な改修、補修、交換を行えば使用に問題はないと思われる。建築関係では校舎は鉄筋コンクリート造であり、主要な構造体は目視の範囲内ではただちに大きな修繕工事を行う必要はないと思われるが、一部建物は新耐震基準以前の建築年となっており、用途によってはコンクリートの劣化検査、耐震基準の確認、耐震工事等が必要になると思われる。外部建具まわりもきれいに保たれており、漏水の心配はないように思われる。浄化槽及び設備関係の各種埋設配管については、調査の対象外としたため必要に応じて今後調査を要するが、2020年3月まで運用されていたことから、建築同様に大きな問題はないと推測される。南棟校舎では2001年と2017年に屋上防水工事が行われていたが、東棟校舎については工事の記録はなく、近年中に工事が必要と思われる。

飲食業、製造業、宿泊業などについては、消防法、それぞれの業法に沿った内装の改修工事が必要であるとともに、全体の給排水や電気の容量、浄化槽人槽などの確認が必要である。また、校舎が広く、複数の利用者での利用が想定されるため、校舎内での分電盤や子メーターの設置工事をいかに行うかなどが懸案事項として想定される。

B ワークショップの開催について

ワークショップの目的と方法：

旧大川中学校利活用に向け、住民参加型のワークショップを行った。本ワークショップは、「利活用案の検討」、「自主的に運営できるコミュニティの形成と人材の発掘」を目的とした。ワークショップでは、活用方法だけでなく、地域が抱えている課題や活用したい地域資源などを整理して、地域を残す、興すビジョンを参加者に検討してもらった。また、地域の過去・現在・未来を振り返り、その中から地域にとって大事にしたい要素、解決したい課題を整理して、地域が目指す将来的なビジョンを検討するプログラムとなるように設計した。合わせて活用検討の際には、持続可能なものとなるように「住民がやってみたいこと」、「地域でできること」、「地域が求めていること」を整理しながら進めた。



ワークショップ実施の回数：

大川地区で3回、阿久根駅で1回の計4回（トークイベントを別で1回開催）

第1回目実施報告：

・実施日 令和4年9月29日 19時～21時 実施場所：きてん（大川地区）

・参加人数 20人

・概要

1回目の開催は、2回目以降の開催で女性や若者が参加しやすい環境を作りたいと考え、女性中心のワークショップを実施した。

市役所による地域課題の説明のあと、地域の魅力の確認作業やそれぞれがやりたいことの共有などを行った。

・成果

◎ワークショップ実施の意図を伝えることができた。

◎積極的な意見の発表が見られた。

◎参加者間でチーム意識が芽生えた。

◎お互いの意見、考えを理解することができた。



## 開催の様子



### ・主な意見

- ◎大川の財産なので大川で考えたい。
- ◎剣道など大川の特徴を利用したい。
- ◎行事や暮らしなども活かしたい。
- ◎肥薩おれんじ鉄道に関する利活用アイデアが作りたい。
- ◎若い人の参加を増やしたい。
- ◎阿久根市全体の町事になるようにして欲しい。

### ・地域の魅力について

剣道人材・川海老・赤飯・つけあげ・もくず蟹・川が綺麗・肥薩おれんじ鉄道のある風景が好き・海が近い・湧き水・きてん・ぼんたん・道の駅・夕日・霧島神社・養蜂・猫多い・ジビエ・おばあちゃんとおじいちゃん優しい・人柄が良い・美味しいイタリアンがある・のんびり・空き家たくさん・ランニング、サイクリング環境◎・薩摩街道・風情がある・チーズブッセ美味しい・子供たちが素直・駅舎がレトロ・豆腐が美味しい・国道3号線から近いけど静かな環境など

## 第2回目実施報告：

・実施日 令和4年10月21日 19時～21時 実施場所：阿久根駅

・参加人数 32人

### ・概要

1回目同様に市役所による地域課題、主旨の説明のあと、地域の魅力の洗い出し作業やそれぞれがやりたい事の共有などを行った。

### ・成果

- ◎ワークショップ実施の意図を伝えることができた。
- ◎積極的な意見の発表が見られた。
- ◎参加者間でチーム意識が芽生えた。
- ◎お互いの意見、考えを理解することができた。
- ◎鶴翔高校生を含め大川地区外の参加者を確認することができた。



## 開催の様子



### ・主催者所見

観光、福祉、教育などの視点で多くのアイデアが生まれた。どのアイデアも地域課題の改善、地域の活性化につながるものだが、どのアイデアを採用すべきか、誰がやるのか等については不透明な部分がまだ多い。

### 第3回目実施報告：

・実施日 令和4年11月30日 19時～21時 実施場所：大川地区公民館

・参加人数 20人

### ・概要

大川地区で2回目の開催。前回同様に開催主旨の説明のあと、これまでに提案された利活用案を共有しながら、それぞれがやりたいことと絡めた活動、事業ができないかを検討した。

### ・成果

◎ワークショップ実施の意図を伝えることができた。

◎積極的な意見の発表が見られた。

◎参加者間でチーム意識が芽生えた。

◎お互いの意見、考えを理解することができた。

◎地域資源を活用した観光事業に取り組むことで地域福祉の環境を間接的に向上させることができるなど、異なる領域の活動、事業の掛け合わせで目的外の地域課題を改善できることが確認された。



## 開催の様子

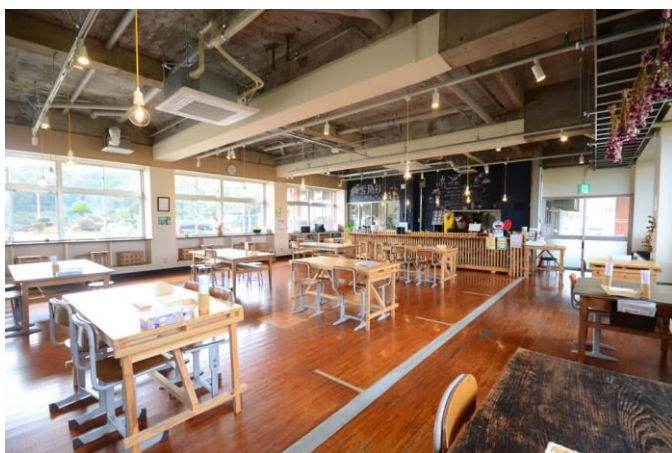


### ・主催者所見

さつま町では合宿等で北薩広域公園内にあるスポーツ施設を利用する際に、町外の宿泊施設を利用されていたことへの解決策として廃校をリノベーションし2019年に「きららの楽校」をスタートさせた。鹿屋市では鹿屋市出身の建築家が中心となり法人を設立し2018年に合宿等団体利用者をターゲットとした観光宿泊施設「ユクサおおすみ海の学校」をスタートさせた。当市、大川中学校のケースにおいてもこれらのケース

きららの楽校

ユクサおおすみ海の学校



スを踏まえて、公益性、収益性の高い地域課題解決型事業やユクサおおすみ海の学校のように地域への理解もありながら、資金調達力も高い事業者を発掘することをワークショップの一つの成果と考えていたが、これまでのワークショップではそれぞれに小規模ながらも男女、世代の垣根を越えて幅広い提案がなされており、一つの大きな核となる事業を探るのではなく、小さな取組、事業の集積が活かされる利活用案を検討することが阿久根らしい廃校活用になるのではないかとこの気づきを得る機会となった。



#### 第4回目実施報告：

・実施日 令和5年1月28日 10時～14時 実施場所：旧大川中学校

・参加人数 12人

#### ・概要

午前中はこれまでに提案された利活用案を共有した後に校舎を散策し、アイデアを事業化させる場所（教室）のイメージを広げた。午後からは実現性、運営方法などについて意見交換を行った。

#### ・成果

◎廃校の利活用がスタートする際に関わってくれそうなメンバーが見えてきた。

◎校舎全体ではないが具体的な利用希望者が複数名出てきた。

◎利用者による相乗効果の話がイメージできるようになってきた。

#### 開催の様子



・主催者所見

参加者は校舎を見学したことでより具体的に利活用のイメージを持つことができた。数名だが具体的に加工品製造拠点、カフェ、宿泊施設、アップサイクルステーションなど事業を始めたいという声もあがった。前回のワークショップの所見でも示したとおり、これらの事業はそれぞれ異なる事業者で小規模であることが特徴と考えられる。また、事業者、サポーターなど運営に関する地域住民の関わり方も見えてきた。



- 大きな事業は・・・
- ◎実現可能な事業者が少ない
  - ◎事業が失敗したときの代替が難しい
  - ◎雇用は生まれるが当事者意識を持ちにくい



強い使命感を持った人材が必要  
収益性が持続の可否を決定



- 小さな事業は・・・
- ◎チャレンジがしやすい
  - ◎意欲的な出店者交代が期待できる
  - ◎それぞれが事業者のため当事者意識を持ちやすい



阿久根の気質に合っている  
持続可能性が高い

旧大川中学校利活用アイデア

アイデア	若者	観光	生きがい	地域おこし	移住定住	補足説明
まちぐるみ旅館		◎	◎	◎	◎	地域の魅力を売りにした宿泊施設/合宿も受入れ出来る
学生用寄宿舎	◎			◎		地産地消食堂やオンライン学習塾が併設された先進的寄宿舎
大川カフェ		◎	◎	◎		地域のお母さんが運営、ぼんたんなど地域の特徴を活かした
体験学習拠点	◎	◎	◎	◎		観光客だけでなく小中学校の課外授業にも対応
ペットホテル&エステ		◎		◎		ドッグラン、トリミングなども出来るペットに特化したホテル
サウナ		◎		◎		阿久根市内の野遊びと連携/果物、植物などを利用
料理学校		◎	◎	◎		味噌や豆腐づくり、ジビエなど地域の特色を活かした
サードプレイス	◎			◎		自然環境を活かしたリラックスできる場所
映画館	◎	◎	◎			光回線を活用したオンデマンド配信の映画館
行きたくなる防災拠点				◎		最低限ではなく楽しめる、癒される仕掛けを用意
コワーキングスペース	◎			◎	◎	光回線があるのですぐにも運用可能
ワーケーションセンター	◎			◎	◎	農業、製造業等の期間限定就労者のための宿泊施設
ツーリズムセンター		◎		◎		海遊び、川遊び、ツーリングの集合、解散拠点
直売所		◎	◎	◎		地域の農産物、加工品を製造、販売
アーティストインレジデンス		◎		◎	◎	芸術家のための滞在型制作拠点/料理人も含めて
ドローン練習場				◎		農業、漁業等の現場でもニーズが増えている
ボルダリング	◎	◎				校舎の外壁なども利用できる
柑橘類の加工品工場		◎		◎		搾汁から加工品製造まで/カフェを併設
鶴翔高校レストラン	◎	◎		◎		鶴翔高校生が運営
移住体験住宅		◎		◎	◎	1週間~1ヶ月間の滞在を想定
農泊水泊拠点	◎	◎		◎	◎	修学旅行生だけでなく一般客も利用できる
新しい商店街		◎	◎	◎		チャレンジショップが並んだ商店街
アップサイクルセンター				◎		家具、衣類などの不用品を改修し販売する
予防介護拠点			◎	◎		校内の活動、事業に関わって貰うことが福祉に繋がる
ウォーキングセンター		◎	◎	◎		おれんじ鉄道や大川地区の自然、史跡を利用したコースづくり
こども食堂	◎		◎	◎		地域の規格外品食材を利用



## C 講演会実施報告：

- ・実施日 令和5年2月20日 19時～21時 実施場所：風テラス
- ・参加人数 32人
- ・概要

これまでの会では個々がやりたいこと、できることについて考えてきた。今回の会では廃校を利活用して作られた新しい場所、コミュニティは地域にどのような作用、変化をもたらすのかについて3人の専門家、有識者に講演いただいた。

### トークテーマ「公共空間の利活用からみる地域の変化」



市村良平 Ryohei Ichimura

1986年島根県益田市生まれ。

株式会社スタジオグッドフラット 代表

企画・プロデューサー。大学進学を機に鹿児島に移住。鹿児島大学大学修了（建築学専攻）後、鹿児島市内の商業施設・マルヤガーデンズでコミュニティスペースの企画運営を担当。独立後は、中心市街地活性化、公共空間利活用、子育て支援、男女共同参画など社会課題の解決に向けた取組をサポートする事業を行う。2021年9月からは加治屋町にて gallery HINGE（鹿児島市）を共同運営。鹿児島県地域連携アドバイザー。

### トークテーマ「廃校から子供と地域の未来を考えてみる」



興水基 Motoi Koshimizu

1980年鹿児島県阿久根市生まれ 3児の父

2003(H15)年3月鹿児島大学教育学部学校教育教員養成課程心理学専修卒業

2005(H17)年3月同大学院教育学研究科学校教育専攻教育心理学コース修了

学校法人めぐみ学園 理事長 2017(H29～).4～

認定こども園阿久根めぐみこども園 園長 2015(H27～).4～

風の丘めぐみ保育園（東京都世田谷区認可保育園）2022(R4).4～

鹿児島県子ども子育て支援会議委員（2014～2021.11）

阿久根市子ども子育て会議委員（2014～）、同会長（2017～現在）

一般社団法人鹿児島県私立幼稚園協会理事（～2022.6, 教育研究・認定こども園担当）

### トークテーマ「阿久根らしい廃校活用について」



遠矢弘毅 Hiroki Toya

1967年鹿児島県阿久根市生まれ。

大学進学を機に北九州へ移住、リクルート、会計事務所勤務ののち財団法人北九州産業学術推進機構にてインキュベーションマネージャー。2010年 café causa(インキュベーションカフェ)創業。エリアマネジメントの株式会社北九州家守舎代表取締役、ソーシャルビジネス支援の(一社)ソシオファンド北九州理事、ホステル&ダイニング株式会社タンガテーブル取締役。Ale&ade(レモネード移動販売)の運営、元テレビ西日本「NEWS ファイル CUBE」コメンテーター、九州産業大学シニアインキュベーションマネージャー。

## 開催の様子



### ・講演の感想

参加者からは、ここ数年の地域おこし協力隊の活動や隊員の定住、起業の影響もあり、地域おこし活動に関わる地域住民や地域の変化について肌感で実感している地域住民が増えている。その影響で民間の主体によるまちづくり、地域活性化の可能性について意欲的な考えを持つ市民が増えているという話があった。そのような明るい状況を後押しするためにも、旧大川中学校を地域を興す、残すための資源として活用することは是非やるべきだという意見を多く聞くことができた。

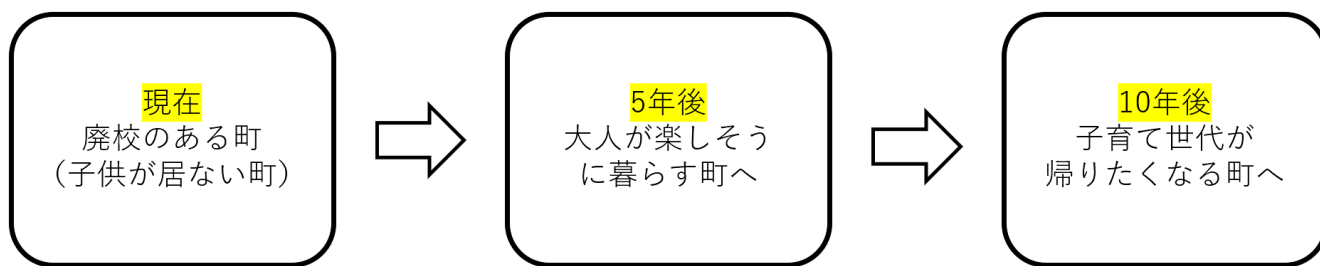
### ・講演会からの気づき

- ◎大人が楽しむことで子供、子育て世代が楽しめる環境、地域を作ることができる。
- ◎「ために」から「ともに」へ。使命感による地域活性化は少子高齢化地区では継続させることが難しい。楽しんでやることでより広い地域、世代を巻き込み、継続的な活動、事業をすることを可能とする。
- ◎目的（課題）と手段（事業）の関係だけでなく、その先に地域に起こる作用も活動、事業の価値として考えることでより効果的に事業の価値、地域の暮らしを向上させることができる。（アウトカムの地域課

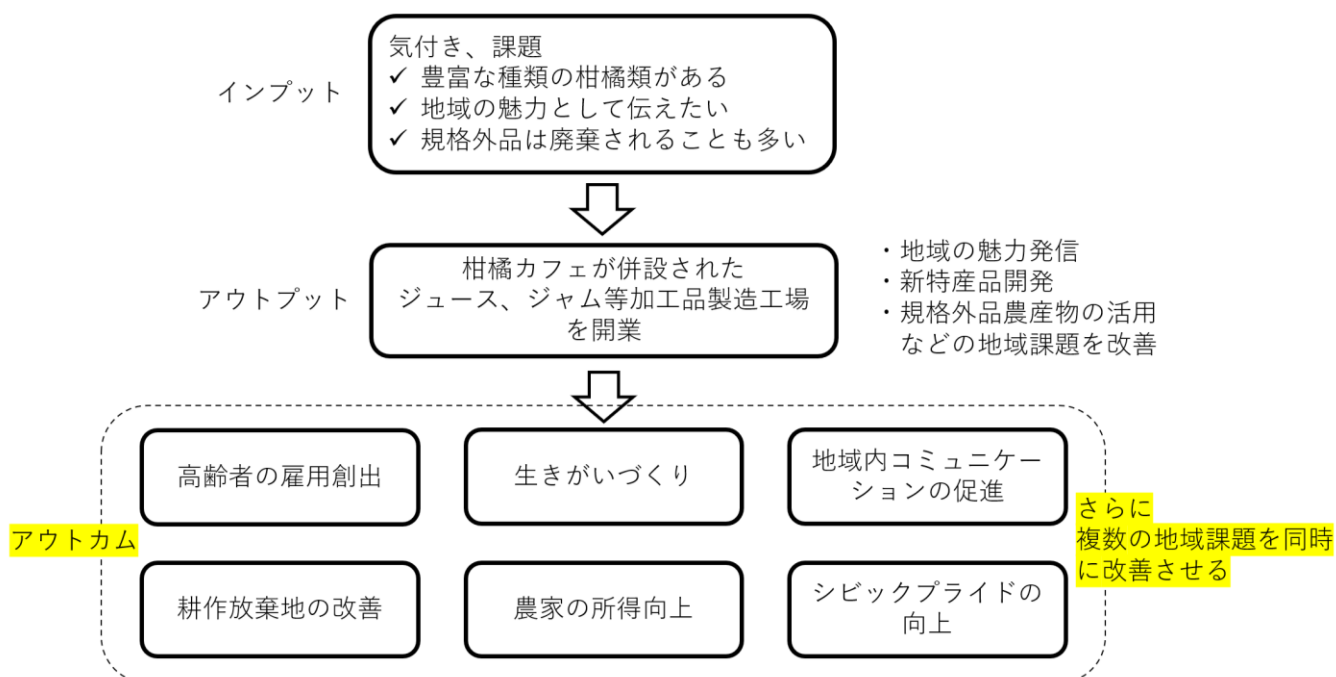
## 題解決手法)

- 参加者の共感が高かったテーマ

「大人が楽しむことで子供が楽しめる町へ」



「一つの取組で複数の地域課題を解決するアウトカムの地域課題解決手法」



## D 基本構想

### ① 目的、基本理念

大川中学校から阿久根の未来を描く地域人材を育てる。

子供たちの学び舎として73年の歴史を持つ旧大川中学校。その建物や大川地区、阿久根にある地域資源（ヒト、モノ、コト）を活用し、地域の観光、産業、福祉、教育などの領域で新しい挑戦、事業を始めたいと考える個人、企業の応援施設として再生、利活用する。

### ② コンセプト

「地域のワクワクが集まりつながり広がる大人の学校」

### ③ 用途

レンタルオフィス（事務所、アトリエ、工場など）、コワーキングスペース、宿泊施設、レンタルスタジオなど

### ④ イメージ（参考事例紹介）



## a 台東区デザイナーズヴィレッジ（東京都）

### 概要）

台東区の地場産業であるファッション・雑貨産業の活力、競争力を高めるため、2003年の統廃合によって使われなくなった小島小学校の1、2階部分を改修して、ファッション関連のデザイナーのための創業支援施設とした。事業・運営計画としては、台東区産業部経営支援課とインキュベーションマネージャーが核となり、入居者のニーズにあわせて最適な企業等を紹介できるコーディネート能力や新たなビジネスの展開をサポートしている。入居者は主に靴、鞆、バッグ、ベルト、帽子、アクセサリ、ジュエリーにアパレル等を加えたファッション・雑貨産業を中心としたデザイナーである。入居期間は3年以内（ただし、最長5年まで延長可）で手作り教室や入居者の作品展示会などのイベント等を企画しながら、産業と地域を結ぶ核としての役割を担っている。

### 用途）

レンタルオフィス、シェアアトリエ



## b 三条ものづくり学校（新潟県）

### 概要）

ものづくり都市にひらかれた、新しい産業拠点三条ものづくり学校は、2014年3月に閉校した南小学校を三条市が民間企業のノウハウを活かしてリノベーション・管理運営委託している施設。伝統ある優れた三条の地場技術に、デザインやアイデアを加え、三条のものづくり事業の発展に寄与する拠点となることを目指します。

### 三条ものづくり学校 行動指針

- 1 新たな連携および交流の場の提供
- 2 新商品の開発の促進
- 3 人材育成の支援
- 4 地域交流の促進
- 5 情報発信

学校ならではの“はたらく、まなぶ、あそぶ”

誰もが慣れ親しんだ教室、地域の中心にある広大なスペース、学校ならではの自由で夢の広がる空間だからこそ、「ものづくり」を通して、大人も子供もワクワクできるコミュニティが生まれます。

「はたらく」「まなぶ」「あそぶ」が連動して行われる、それが三条ものづくり学校です。





用途)

レンタルオフィス、シェアアトリエ、コワーキングスペース

### c いいかね Palette (福岡県)

概要)

いいかね Palette は、2014 年統廃合となって生まれた廃校、旧猪位金小学校を利活用して「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指し、「福岡コンテンツバレー構想」を掲げ、その中心拠点として 2017 年 4 月にスタートしました。

「なんでもできる世界をつくる」。

校舎、体育館、校庭に裏山など元々ある小学校のカラーはそのままに、新たな色を加えています。関わる人たちの目的に合わせて、どんな使い方だって可能性は無限大。地域の方々はもちろん、福岡市や北九州市といった都市部の方でも、日本に限らず海外の方でも、どなたでも自由にご利用いただけます。

用途)

レンタルオフィス、コワーキングスペース、スタジオ、キャンプ場、食堂、宿泊施設





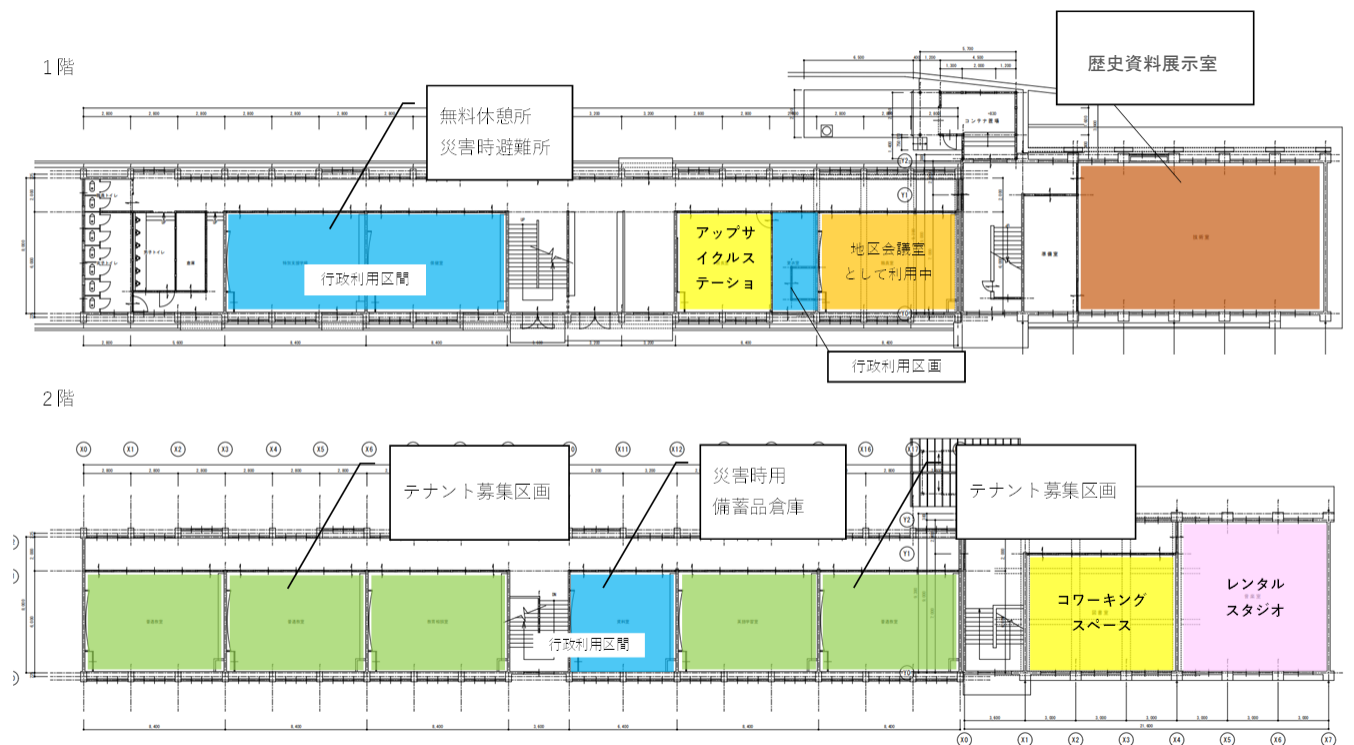
### ⑤ プラン提案

※事業主が決まっていないため、ワークショップを踏まえた参考的プラン案です。

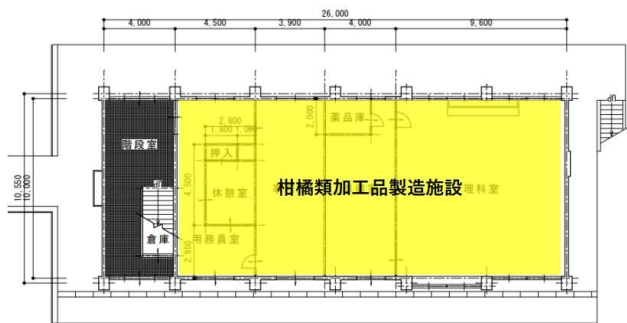
※体育館は大川小学校が使用中のため、改装工事を伴う利活用の検討から除外しています。

※武道館は大川錬武館が使用中のため、改装工事を伴う利活用の検討から除外しています。

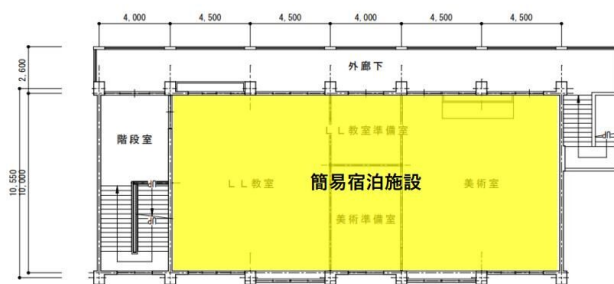
南棟校舎利活用プラン案



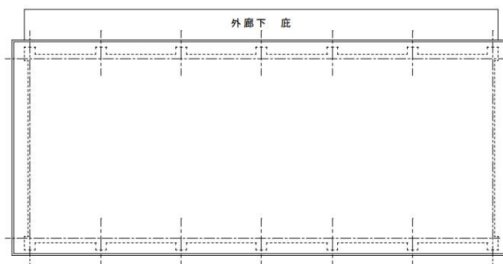
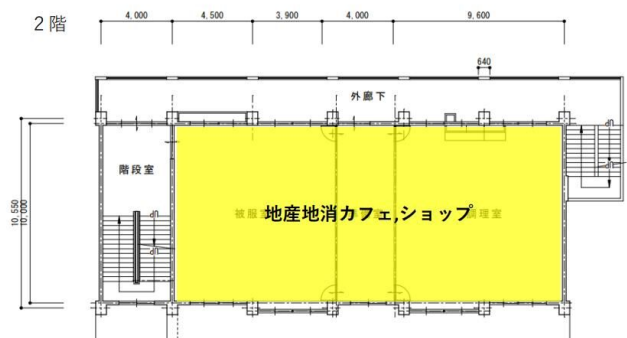
1階



3階



2階



#### ⑥ 運営方法について

複数の事業者が入居するため、入居者の募集や入退去の管理を含め施設全体の管理を行う事業者を見つける必要があるが、ワークショップを行う中で地域住民が中心となった団体など数社の候補を見つけることができた。

共用部分の維持管理、観光拠点として施設全体のPR、地域住民を巻き込む仕掛けとしてのイベント企画などの業務を管理団体で行う必要があるが、テナント区画については基本的には入居者それぞれが維持管理を行うので管理団体の業務、費用負担はそれほど重くないと考えられる。

#### ⑦ 運営費について

基本的な考え方はテナント代、事業費で運営費を賄いたい考えだが、避難所など公共的な利用区画もあり市役所との調整が必要と考えられる。また、インキュベーション施設として入居を検討する利用希望者は高い賃料を支払うことができないので、賃料の設定と管理者が事業継続できる収益性のバランスの確保が懸案事項として残る。また、「観光面や地域活性化の面でより意欲的な成果を期待するのであれば、この事業は地域活性化、創業支援、移住定住促進など複数の地域課題解決と相性が良く、その業務に必要と考えられる人件費や広告費等の経費を業務委託という形式で行政が費用を負担するというやり方も考えられるのではないかと」言った意見が本ワークショップでファシリテーターを務めた遠矢氏からあった。

#### ⑧ 改修費について

基本的な考え方について

- ・テナント部分（賃貸区画内）は入居者の費用負担で改修工事を行う。
- ・共用部、行政利用区画は市役所と協議の上、工事区分を決定。
- ・DIY、セルフリノベーションで改装費用を削減。

#### ⑨ 懸案事項について

用途変更に伴う浄化槽の入替工事や各教室への分電盤の設置工事、水道管の新設工事などテナント

区画内ではない箇所、共用部の工事費をどのように確保するかが現時点では不透明な状況。

⑩ 今後のスケジュールについて

賃料、利用規約、改修工事などに関する協議、取り決めが必要なほか、避難所、公民館機能の移設など市役所内でも協議すべき事項が残っており、校舎全体の貸出しをすぐに行うことは難しい状況ではあるが、ワークショップを経て利用希望者が複数いることから、東棟に限定するなど利用可能な区画から必要な協議を行い、事業候補者の熱が冷めないうちに利用を開始させることが好ましいと思われる。そのためには早期の普通財産化手続も必要である。